

# 高速道路「大阪泉北線」廃止から住民参加での「風かおる“みち”」へ！

道路公害に反対し、東住吉区の環境を守り街づくりを考える連絡会 代表 松田安弘

私たちは、1994年12月から17年間「道路公害反対」「安全で安心できる阪和線高架化を」「美章園駅のバリアフリー化」「天王寺から大和川まで、風かおる“みち”に」と、運動を展開してきました。

阪神高速第2環状線構想の一環としての高速道路「大阪泉北線」計画が出された1971年以降、紆余曲折の後に1981年岸大阪府知事（当時）の下で阪和線の高架化と一体での都市計画決定となり用地買収がすすめられる一方、阪神高速道路公団による「環境予測調査書」も公表され、まさに工事着工直前という状況に直面し運動を始めました。

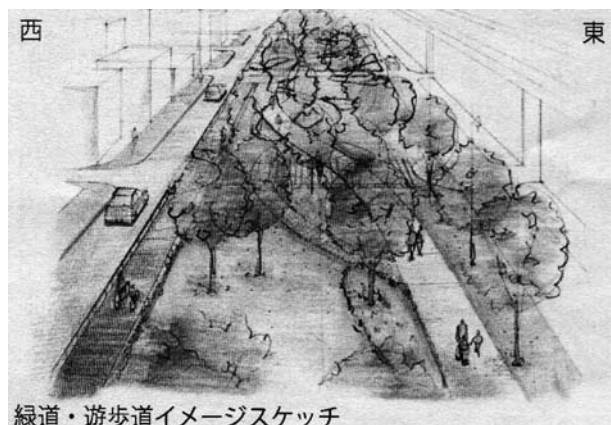
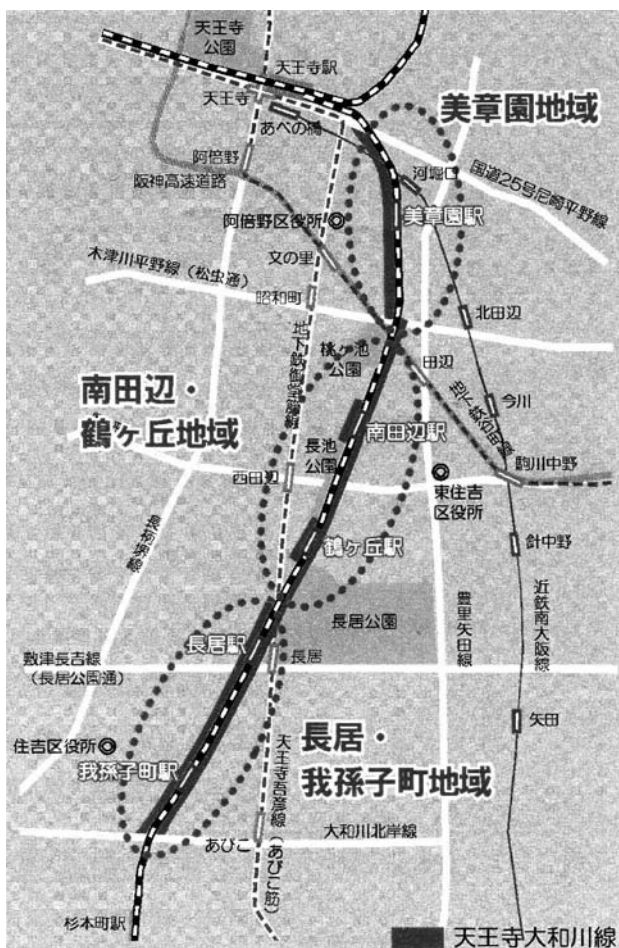
この計画内容は、JR阪和線高架化の上に6車線幅26m、高さ20～25m、一日走行車両予測13万8000台という巨大な三重構造の



もので、天王寺から杉本町までの高速道路計画でした。

私たちは「道路公害反対」の立場から阿倍野区・住吉区の方々と一緒に運動を始め、1995年1月の阪神淡路大震災以降、私たちや地域からの計画の見直しを求める請願が相次ぎ、国土地理院発行の活断層図で長居断層の存在明示もあり安全なまちづくりを求める国民世論に押されて、ついに2004年2月に都市計画決定後で全国初となる高速道路計画廃止となりました。

一方阪和線高架工事は、沿線12の踏切で繰り返されてきた「交通渋滞」「踏切り事故（多数の死亡事故）」を根絶するため、「安全で安心できる阪和線高架化」の早期実現を



求めて運動をすすめてきました。1998年3月大阪市議会で「阪和線先行工事関連予算」が採択され、2000年3月より工事着工し、2004年10月に上り線、2005年5月に下り線の高架化が実現しました。

この間私たちは「泉北線・阪和線問題阿倍野・東住吉・住吉3行政区連絡会」を結成し、各種学習会開催、沿線ビラ配布、沿線ウォッチング、アンケート活動、大気汚染調査、JR西日本や大阪市との『説明懇談会』を12回開催するなど、運動を展開してきました。

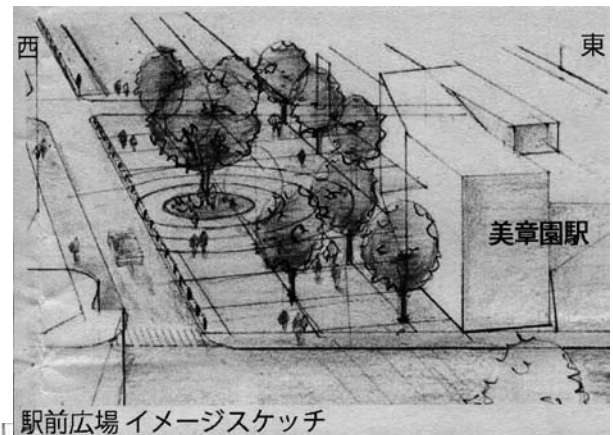
その結果、新駅舎に「エレベーター、エスカレーター（上下線）の設置」「ホームの屋根延長」などが実現し、完成後も騒音対策の交渉の結果「全線消音バラスト散布」「吸音板設置と延長」「各駅舎のホーム壁の隙間を塞ぐ」などを実施させることができました。

この阪和線高架工事によって新駅舎はバリアフリー化されますが、しかし元から高架駅であった「美章園駅」だけ取り残されます。1931年に開通という古い駅舎で、券売機まで3段、ホームまで48段の階段になっています。このような状況から1999年9月、周辺地域で私たちも一緒に運動を始め、アンケート活動の結果をもとにして、2000年5月に200名を超える賛同者で「美章園駅にエレベーター・エスカレーターの設置を求める会」を結成。毎月の駅頭署名と宣伝、学習と調査、JR西日本・大阪市・阿倍野区役所への要望行

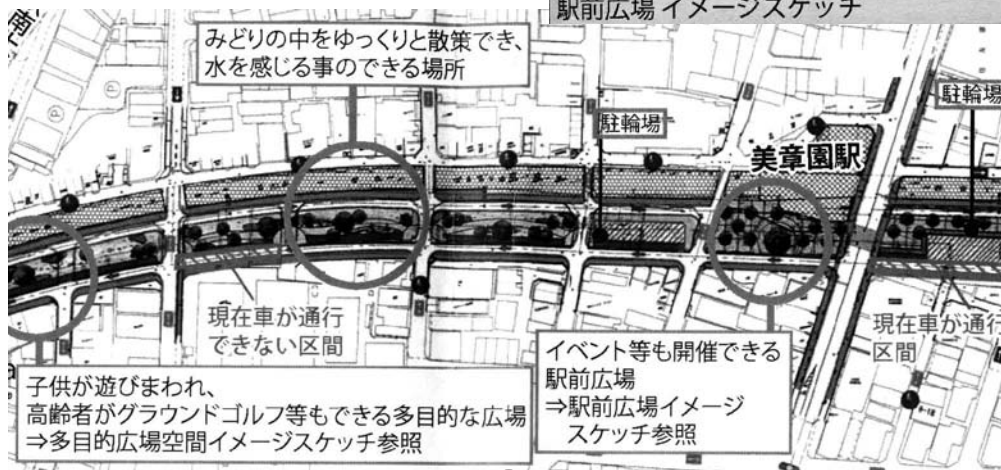


動、市議会への陳情・請願・駅周辺への全戸ビラ配布など9年越しの粘り強い運動の結果、2008年3月に美章園駅のバリアフリー化が実現しました。駅前のスロープ化、上下線のエレベーター、多機能トイレ、男女トイレ改良、階段二重手摺、ホーム音声案内の実施が、その成果となりました。

そして「高速道路大阪泉北線計画」跡地が、新たに「風かある“みち”」（2007年12月大阪市パンフ）という豊かなみどりを中心と



駅前広場 イメージスケッチ



みどりの中をゆっくりと散歩でき、水を感じる事のできる場所

現在車が通行できない区間

子供が遊びまわれ、高齢者がグラウンドゴルフ等もできる多目的な広場  
⇒多目的広場空間イメージスケッチ参照

イベント等も開催できる駅前広場  
⇒駅前広場イメージスケッチ参照



した「天王寺大和川線計画（5.5km）」として整備されることになりました。この計画の実施は住民参加で具体化を図るとして、3つの地域に区分した「みち・みどり会議」が発足し、09年1月から3年、町会・障害者団体・商店街などの代表と地域で活動している団体が議論を重ねてきました。私たちも3行政区連絡会と日常的に相談しながら、3つの地域で積極的に「民主的運営」「みどり豊かに・自然を大切に」実現を目指して活動をすすめてきました。その中で「通過車両は極力防ぐ」「みどり豊かな遊歩道を」「自然を大切に」と議論がすすめられ、大阪市立大学での2回の市民公開授業の開催、沿線住民を対象にアンケート活動も実施され、イメージ図まででき上がりました。パブリックコメントも昨年12月に実施され、3月末にむけて検討委員会・大阪市案がまとめられる状況になっています。



現在は、この3年間の論議到達内容（イメージ図）を広く知らせるための取り組み（イベント企画・企業や学校訪問など）の検討も始まっています。引き続き、子どもや孫の世代まで良かったと言われるものにするため、地球温暖化・ヒートアイランド対策・防災・福祉の視点から、「みどり豊かなやすらぎと憩いのひろば・公園とそれを結ぶ散策のみち」実現をめざして運動を展開していきます。

(2012. 2. 26. 公害環境デー・文責中森)

